

三室先生への謝辞

三室先生、本日は大変貴重なお話をありがとうございました。

私は昨年8月に教員向けの会で重度障害児のコミュニケーション指導をテーマにした三室先生のご講義を拝聴しました。そして、どんなに重い障害を抱えていても一つ一つの段階を経て人間は発達するのだということを改めて実感しました。このテーマはぜひとも保護者の皆さまにも聞いていただきたい、そう強く思い、三室先生に本日の研修会の講師をお願いいたしたところ、二つ返事で引き受けてくださりました。

お打ち合わせの中でのとても印象深い三室先生のお言葉を会場の皆さまへご紹介します。

「昭和49年、東京都では重度障害児でも希望する全員が養護学校に入学できるようになり、私はその頃に大学を卒業して教職に就いた。当時の職場の先輩たちはみな、それぞれが専門科目において教鞭をとってこられていた。だから、重度の障害がある子どもたちへの指導方法を知る人がいなかった。教えてくれる人がいなかった。それならば、私たち若い世代がその指導方法を研究し、築いていくしかない、そう思った。」

当時の三室先生を始めとした、熱く信念を持った先生方がいらっしゃらなかつたら、現在のきめ細やかな特別支援教育の存在はあり得ず、私たちの子どもの成長発達もまた違うものであったかもしれません。そのことに深く感謝いたすと同時に、自らタスクをつくり遂行するという姿勢に、人として社会人として見習うべきことと感銘を受けました。私たち保護者もまた、本日得た学びをもとに実践してまいりましょう。

本日の研修会には沢山の保護者の皆さま、先生方にご出席いただきました。大変嬉しく存じております。ありがとうございました。